



このコーナーでは、職員の趣味や特技を紹介します。今号は、香美副病院長（総務担当）に寄稿いただきました。

海外、一人ぶらぶら歩き



広報担当より、“何か先生の趣味、特技を書いてください。これ順番で回っています”と言われ安請け合いしたのが悪かった。日常的に、病院（教室）と自宅の往復になっていて学外に出るのも学会、会議関係で変化の乏しい日々を送っています。若い頃は卓球、テニス、水泳とよく運動に余暇の時間を使っていたのですが、いつの間にかそれも無くなりました。

こんな状況で、あえて今、楽しんでいる、楽しみにしているのは何かと問われれば、現在、小児科関連の国際学会のcouncilorを勤めている関係で、毎年、5大陸を順次回って開かれる会合に参加することでしょうか。世界各地域代表との年次missionの討議が終われば、仕事以外の色々な国の事情、近況が聞けますし、開催地が普段の学会では訪れることのない場所、発展途上国なので印象的なことが多いのです。

南米、サンパウロ会議の時は宿泊ホテル周辺の治安が悪くて大変でした。結局、会場とホテルの間のcab往復で終わった、どこにいいのか良く分からない、ある意味で忘れられないものでした。一方、一昨年のポーランドでの会議はかの有名なアウシュヴィッツ収容所近くの古都、クラクフで行われました。会場は中世の趣がただよう旧市街の一角にあり、正面の石畳の広場には美しい教会が見えました（左上写真）。丸一日のタイトな会議が終わりホテルに向かいぶらぶらと歩いていた時、uniwersytet…の表札が壁に見えたので大学だろうかと思い、その古い建物の間の小径に沿って歩いていってみました。暗い通路と回廊を抜けると光さす広い庭が現れ多くの観光客が写真を撮っている場面に出会いました。これは、何か有名なものだろうと思い撮っておいたのが右下の写真です。後で聞いて分かったのですが、ここはUniwersytet Jagielloński（ヤギェウォ大学；1364年創立～）と言って中欧では大変由緒ある大学で、これはコレギウム・マイウスという15世紀、ゴシック様式の建物です。ここで地動説を唱えたコペルニクス、若き日のヨハネ・パウロ2世も学んでいます。中世までは王制で栄華を誇ったポーランドはその後隣国から侵略されソ連との関係で社会主義体制となりました。ソ連崩壊後は自由主義国家として次第に経済力をつけてきています。ポーランドは、ヨーロッパの中では後進国のイメージですが、元々のポテンシャルは中々のものなのです。

今年はインド、ニューデリーで開催されます。開催地の情報をあまり入れずに訪れてみると、意外な驚き、発見や出会いがあり記憶に残る体験ができるので、仕事のついでとはいえなかなか楽しいものです。

副病院長（総務担当） 香美 祥二



左上写真:後ろに見えるのが聖マリア教会で、1200年代のモンゴル軍襲来時には塔のてっぺんから兵士がラッパをならして味方に危機を知らせたそうです。

右下写真:コレギウム・マイウスは現在、大学の博物館になっていました。皆が注目しているのは有名なからくり時計です。

このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します。

「クリニカルアナトミー教育・研究センター」設立のお知らせ



クリニカルアナトミーラボ研究室

この度、徳島大学にクリニカルアナトミー教育・研究センターを開設することとなりました。本センターは臨床医学の教育及び研究のために未固定遺体を用いた施設で、医師、歯科医師を対象としております。

近年、高度かつ安心・安全な医療を求める社会的要望を背景に、手術手技をはじめとする医療技術については、シミュレーターや動物等を使用して十分なトレーニングを積むことが要求されています。しかしながら、複雑な人体解剖を完全に再現したトレーニング環境を構築することは未だ困難な状況です。特に外科領域では内視鏡下手術に代表されるように低侵襲化が進むことで術野が狭く手技が高度化しているため、手術手技を習得する機会が減少しています。次世代の人材育成の観点からもトレーニング専門施設の構築は急務となっております。

このような状況を受け、海外では遺体を用いた医療技術・手術手技の修練（カダバートレーニング）が急速に普及してきていますが、わが国ではホルマリン固定遺体を用いた卒前の解剖学教育が中心であり、医療技術・手術手技の修練や研究開発のための施設はわずかしがなく、特に未固定遺体を用いることのできる拠点は整備されておりませんでした。わが国の状況を改善するため平成24年度に日本外科学会・日本解剖学学会からガイドラインが公表され、手術手技研修や先進的な手技開発などの目的でご遺体を使用できるようになりました。

徳島大学の本センターは未固定遺体によるカダバートレーニングに対応でき、X線装置、CT、MRIを完備していることから、高度医療技術の修練や先進医療の研究開発に対応できる施設となっております（写真）。この教育研究センターを活用して、新たな医療技術トレーニングプログラムを開発したり、基礎研究を推進し病態解明研究の実施拠点施設とするなど、多方面に発展できる可能性を秘めております。

最後に、設立に向けて多大なるご支援をいただいた関係者の皆様に御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

クリニカルアナトミー教育・研究センター

副センター長 東野 恒作



CT室



MRI室

TOPICS

第4回安全管理研修会

【日 時】平成26年10月16日（木）17時30分～

【テーマ等】消化器内視鏡に関する安全管理

講師 消化器内科副科長 六車 直樹 先生

脳神経血管内治療における安全管理

講師 脳神経外科副科長 里見 淳一郎 先生

【場 所】第二臨床講堂

第3回感染対策研修会

【日 時】平成26年11月20日（木）17時30分～

【テーマ】あの日を忘れない！東日本大震災から感染対策を考える

【講 師】塩竈市立病院感染管理室看護師長 佐藤 ひろみ先生

【場 所】第二臨床講堂

病院NEWS

整形外科

新講座開設・昇進祝賀会を開催しました

2014年7月1日より脊椎関節機能再建外科学講座が新たに開設され、これに伴い6名の先生が准教授、講師へ昇進しました。このため7月26日、徳島グランヴィリオホテルにおいて、新講座開設および昇進祝賀会を行いました。医局員・リハ部・病棟・外来・手術部に加え、大学病院長や同門会幹部、関連病院部長もお呼びし、総勢62名の参加となりました。当教室の勢いを反映するような、活気あふれる盛大な会となりました。

運動機能外科学 西庄 俊彦



「子供阿波踊り」を開催しました！



栄養部

8月6日（水）西病棟玄関ロビーにて、恒例の「子供阿波踊り」を開催しました。職員有志の方々や栄養学連の協力を得て、入院中の患者さんをはじめ、あゆみ保育園の園児たちと、一足早い阿波踊りを楽しみました。かわいい子供さんの踊る姿には誰もが気持ちを和まされ、自然に笑顔があふれてきます。この瞬間を大切に、人とのふれあいを明日への活力としてこれからも続けて行きたいと思いますので今後ともご協力よろしくお願いします。

栄養部 松村 晃子



整形外科

かがし連2014

徳島大学整形外科は8月12日阿波踊りに参加しました。今年は病院長ご夫妻を始め大学病院職員、県内関連病院のスタッフに加え、ゲストとしてアテネ五輪ハンマー投げ日本代表の室伏由佳さんをお迎えしました。腰痛で苦しむ室伏さんを西良教授が治療したのが縁で、現在は当科の非常勤講師をされています。好天の中藍場浜演舞場、紺屋町演舞場で踊らせて頂き阿波踊りを満喫してきました。来年も多くの方の参加をお待ちしています。

整形外科 浜田 大輔

食道・乳腺甲状腺外科、呼吸器外科

徳島ピンクリボン集会を開催しました

徳島ピンクリボン集会～がんとうまく付き合う方法～は、阿波踊り最終日の平成26年8月15日（金）にホテル千秋閣にて開催致しました。

集会後、今年も全国から、肺がん、食道がん、乳がんの名だたる先生方がピンクリボン連にご参加くださり、がん検診普及のために患者さんと機軸に躍り込みました。

食道・乳腺甲状腺外科 吉田 卓弘

